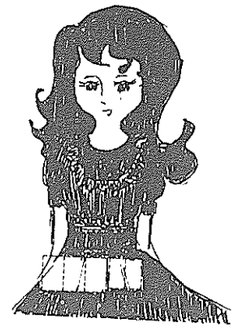
市民のひろば



高木美保（浜改田）

親子クイズ　㊲

ご家庭で話し合って答えてください。答えは今月号の広報に出ています。

■もんだい

①待望のゴミ焼却場が完成しました。1日の焼却能力は○○トンです。

■しめきり・10月15日（火）

■おくり先・〒783　南国市大埇南国市役所内広報委員会、親子クイズ係。

■答えのハガキには必ずお歳、職業を書いてください。

広報や行政に関するご意見、マンガ、詩などもどうぞ。

■しょうひん・特賞 2,000円＝1人、残念賞（記念品）＝10人

特賞に片山澄子さん（東崎）

第36回の正解者発表

■こたえ・②④でした。

■特賞・2,000円、片山澄子（東崎）

■残念賞・戸梶之裕（稲生）星沢冨貴子（廿枝）中司千恵（白木谷）森田泰夫（後免）西本智佐（植田）山本千世（稲生）森国安雄（浜改田）山岡勝（小篭）野村富幸（里改田）蒲浦理恵（大埇）

明日への希望新たに

母子家庭交歓の集いに参加して

森国　真枝（浜改田）

母子家庭交歓の集い――。私たち母子にとって、どんなにか心待ちにした日が、とうとうやって来ました。

大きな期待と同時に、誰も知った人がいないので、ちょっぴり不安もありました。が、子供はもううれしさいっぱいで海のことやお友達のこと。もう、じっとすることができず、バスの中からはしゃいでいます。

早やバスは会場の海風荘。

昼食をとって、開会のあと高知大、藤岡先生の講演。

子供たちは元気に浜へ飛び出していきました。

藤岡先生も、幼くして父を失い母の手一つで育てられたとのこと。昔をふり返っての講演に、私はじっと目頭があつくなることを、どうしようもありませんでした。

なかでも、子供をしかることのむつかしさ、▽時を選んでしかる▽場所を選んでしかる　▽一対一で、第三者を立入れない。私にとって、とてもこの上ないお話でした。

講演のあと、浜にいる子供たちと合流。岩にもたれ、波に足を洗い、石投げ、暑さもふっ飛ばすような子供たちの元気なこと。どこの誰とも解らずながら、子供たちには子供たちの世界で、手をとりあっている姿に、本当にこの会が発足し、参加できたことをうれしく思いました。

ガヤガヤ、キャーキャー。午後六時、お風呂の時間です。

この時ほどこの八年間、一人で頑張ってきたかいがあったと思いました。裸と裸のつきあい、子供たちの生き生きした目、大人たちも背中の流し合い――。本当に楽しい時間でした。

夕食会、レクリエーション。

心に太陽を、口びるに歌を。

歌――それは、人々の心を結ぶ愛情のリボンです。

いつも暗くなりがちな私たち母子にとって、明るい灯の言葉です。

踊り、子供たちの舞踊、奇術、映画、そして、就寝。

子供たちは子供たち同志、親子別々の就寝です。子供たちは「お母さん」といって、一、二度きましたが、それっきり、ゆっくり休んだことでしょう。

私たちは消灯がきても、お互い心に持つ悩みは同じで「こんな時はどうする。そんな時こうやる。」話は尽きる事なく、気が付いて寝むくなった時は、すでに時計は午前三時三十分をさしていました。

朝、子供たちの「お母さん」という声に起こされラジオ体操、朝食、映画鑑賞、体験発表、追跡ハイキング、座談会と楽しい計画でいっぱいです。

悩みはみんな同じで私だけではない、お互い裸でつきあたる問題に力を合わせてやってゆこう――と明日への希望を新たにすることができました。

今年参加できなかった方も、このような会にどしどし参加し、視野を広め、一人でも多くの友達を増し、現在持っている悩みをみんなでわかち合い解決していきたいものです。

（紙画の都合で一部割愛させていただきました。）

つくし

歌は世につれ、世は歌につれ――昭和二十年日本敗戦の年、並木路子が歌った「リンゴの歌」が、荒れた人びとの心をなぐさめてくれたものです。

昭和二十一年、新円騒動、平和憲法制定といった世相の中で、庶民はただ「泣くな小鳩よ」と歌うだけ。二十二年、インフレの波がふきすさぶなかでも「港が見える丘」と過去のよき時代をしのぶだけでした。二十三年、帝銀事件、昭電疑獄のなかでも追憶ムードで「湯の町エレジー」「異国の丘」。二十四年、いくぶん明るさをとりもどして「青い山脈」が出ましたが「長崎の鐘」の悲しいムードが忘れられず、二十五年、朝鮮動乱で特需ブームがおとずれても「白い花の咲くころ」「水色のワルツ」とカラ騒ぎを信じようとはしないメロディが人の心をつかみました。ところが二十六年、「アルプスの牧場」の軽快なテンポが出るや、二十七年「芸者ワルツ」と、もはや遊興の気分のなかにひきこまれていきます。それからは二十九年「ウシュクダラ」太陽族が出た三十年の「お富さん」とつづき、どうにもならないくらい欧米化した日本に、人びとは「ケセラセラ」と歌ったものです。赤線の火が消えた三十三年には「有楽町で逢いましょう」といういう純情派と、「どうせ拾った恋だもの」のヤケクソ派が両立し、岩戸景気の三十四年には「黄色いさくらんぼ」レジャーブームがおとずれた三十七年、人びとはさまざまな思いをこめて「どこか遠くへ行きたい」と歌いついに四十年、襲ってきた不況の中で「綱走番外地」をしのぶといったところです。そして「どうにもとまらない」物価高のなかで、台所は火の車、少しは"女性"のありがたさがわかったのでしょうか。「女のみち」「女の操」と"女シリーズ"が大流行。でも、考えてみれば「うそ」もついてもらえない、そんな年令に、私はなってしまいました。

小野静子（大埇）

流行歌

あなたの便り

西原富美雄（領石）

■もっと若い人がどんどん読むような記事をのせたらよいと思う。

元吉頼子（田村）16歳　学生

▽学校めぐり、小中学生の作品なども検討しています。もっと楽しいアイディアがありましたらお聞かせください。

■南国市も十五年目になったけれど、市民図書館がありませんが県下でも図書館のない市は少ないとの事。つくる計画はございませんでしょうか。

親子クイズもそろそろ当りたいですね。

元吉幾子（田村）

■なぜ、図書館たるものがないのか！

黒沢佐知（廿枝）12歳　学生

▽図書館の希望が大変多いですね。市民のみなさんの声が行政に反映できるよう頑張ってほしいですね。

葛目美弥子（明見）

おとしよりを守るイエロー作戦

おとしよりを交通事故から守ろう――。敬老の日の九月、市は全地区の老人クラブを中心に、おとしよりの乗る自転車を黄色に塗装、あわせて整備点検をしました。

これは六十歳以上のおとしよりが対象ですが、まだ希望のある人は係まで申し込んでください。

自動車を運転される人も「黄色い自転車にはまず除行」を合言葉に、市民ぐるみでおとしよりを守り、人命尊重の意識を徹底していきたいものです。

公害環境課交通係
電話三―二一一一
有線　二〇三八

黄色い自転車には、まず除行

南国俳壇

癌怖る肉質蒼きマスカット　**若草句会**　公文政子

にらの花ピシリと立ちて海鳴りす　〃　和泉えい子

声立てて笑う嬰草の実が太る　〃　小松ふみ

月の道人気無ければ謡い行く　**柿の実会**　井上さえ

くつわ虫葛薬に包みもち帰へる　〃　高石杜伎

秋燈下本にはさまる小虫かな　〃　公文茶恵

むき合ひて家鳩睦む品子の忌　**灯俳句会**　井上なるき

蓮枯れて茎の凋落幾何模様　〃　橋本和子

離陸機を仰ぐ背黄塵を身につけて　〃　中村祭生